大賀蓮の仲間
アメリカ黄蓮の導入

大正年間に一時導入されたものの絶えていたアメリカ黄蓮は、昭和３５年（１９６０年）秋、訪米された皇太子御夫婦にアメリカ在住の日系人の小川一郎氏からアメリカの黄蓮の実が託されて日本に黄蓮が再びもたらされた。この蓮の実は大賀博士に渡されて発芽、育成された。それを阪本祐二先生に分根がなされ１９６２年、阪本先生の自宅で黄色の蓮が開花した。この蓮は皇太子殿下にちなみ「王子蓮」と命名された。

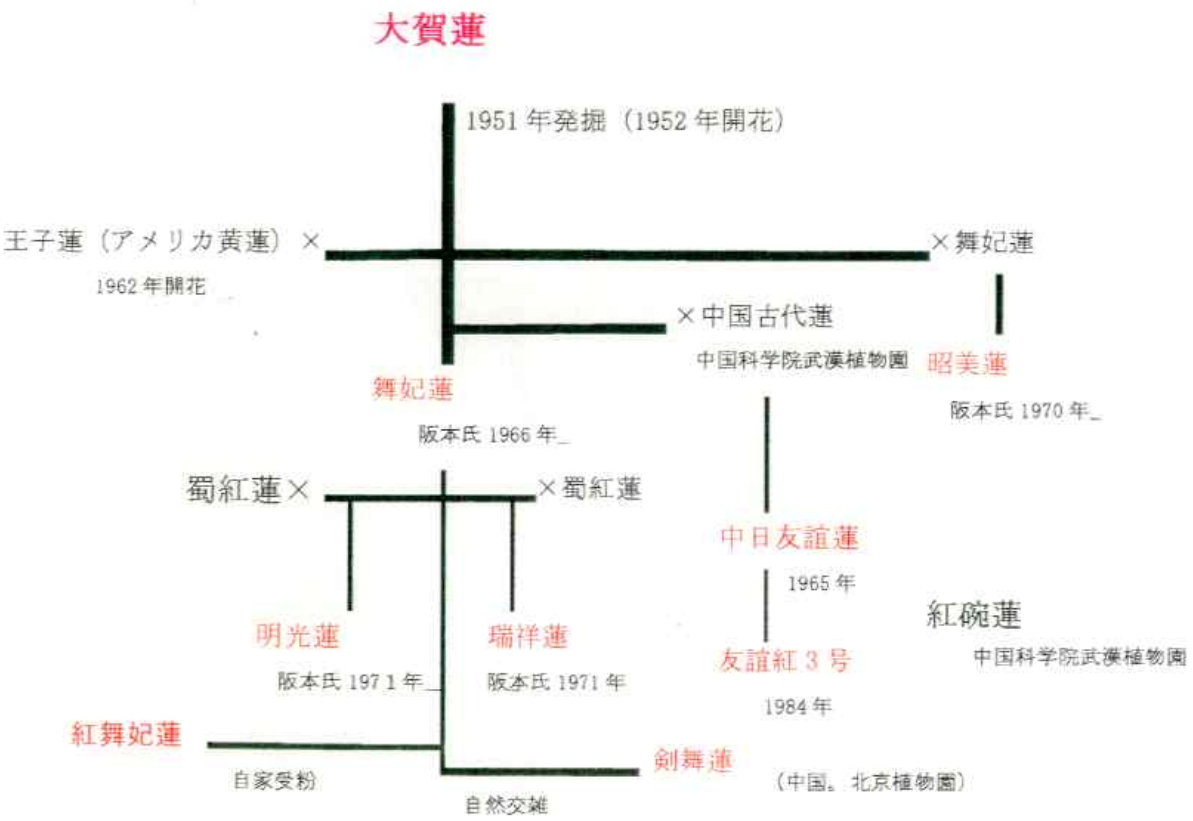
王子蓮

その後、阪本先生により「大賀蓮」と「王子蓮」の交配がなされ、１９６６年6月２１日薄黄色で弁の縁は淡い紅色で大賀蓮の淡紅色と黄色の両方の花色が見事に現われた花が開花した。花弁は大きく花弁数２０から２５枚前後、花径は３０～３２ｃｍと大きな花容である。閉花の時花弁が捩れるが、これは王子蓮から受け継いだ黄蓮の特徴を良くあらわしている。

「このように優美で艶やかな花に阪本先生は美智子妃殿下の美しい容姿をこの花の姿に写して東洋的な名前の「舞妃蓮」にしたのでしょう」と阪本弘子夫人は「蓮の話」１９９６年夏号に寄稿されている。阪本先生はこのハスを皇太子御夫婦に見ていただくため献上をされた。このように舞妃蓮は誉れ高い花蓮である。

舞妃蓮

このほか阪本先生が大賀蓮の系統を引く品種を下図に示したように次々に作り出されている。



明光蓮は大賀蓮と蜀紅蓮の交配種で花色は蜀紅蓮より薄い弁の基部に黄色味が少しある花径は２０ｃｍ前後で一重咲き、弁はやや細く条線が鮮明、花付きが良く開花が多い。

明光蓮

瑞祥蓮は舞妃蓮と蜀紅蓮の交配種で花色は濃い赤と黄色が混合した色合、弁は長く舞妃蓮に似ている。弁の条線は鮮明で花径は２７ｃｍ、茎は黒い斑点があり黄蓮との交雑品種である。

瑞祥蓮

昭美蓮は大賀蓮と舞妃蓮の交配種です。花色は淡黄紅のｵﾚﾝｼﾞがかり退色が舞妃蓮より１日遅い。花径は２６～２８ｃｍと大花型。花弁の捩れはない。

昭美蓮

中日友誼蓮は阪本先生が中国科学院院長、郭氏に日中戦争の贖罪として贈られた「大賀蓮」の種子（１００粒）の実生と中国古代蓮との交配により中国科学院武漢植物園で作出された。花径２８ｃｍ前後の大きい品種と花径２４ｃｍ前後のやや小さい品種である。いずれも花色は紅色で２２枚前後の花弁数。

中日友誼蓮

剣舞蓮は中国北京植物園で日本から贈られた舞妃蓮の自然交雑品種。花色は黄白色で、弁が細く花弁の屈曲性が舞妃蓮より大きく閉花のときはまさしく剣が舞跳ねているような容姿になる。花径は２５～２８ｃｍ、弁数は２０枚前後。

剣舞蓮

友誼紅３号は中国科学院武漢植物園で中日友誼蓮に紅碗蓮との交配で生れた小型のハスである。花弁数は２０枚前後の一重咲きで、花径１０ｃｍ位で小さく２５ｃｍほどの容器でも栽培ができ碗蓮とも呼ばれている。

友誼紅３号

このように大賀蓮だけの品種系統をみてもたくさんの品種ができていますが更に大賀蓮と他の蓮との交配がなされ大賀蓮の仲間が増えることが考えられる。

緑地植物実験所での花蓮の品種保存

緑地植物実験所では１９６６年から大賀一郎博士が蓮の研究で栽培されていた１０品種余りを譲りうけ、研究機関として花蓮の品種保存と育成を始めた。

大賀一郎博士により古蓮が発見されたことで、人々の花蓮への関心が少しずつ高まってきた。また国内の寺院や篤農家が育てていた、花蓮品種が少しずつ収集されていった。１９９３年には新品種の作出も行われ、約７０品種の花蓮が栽培されるようになった。

古くからの栽培品種　　原始蓮

一天四海

また京都府下の南部、伏見区、宇治市、久世久御山町にまたがっていた巨椋池は古い時代から蓮が生育していたと考えられ、明治１３年頃に蓮見に行ったとの記録がある。昭和６年頃になると巨椋池に蓮見の舟が出て、花の観賞が行なわれています。
巨椋池には白や紅色の蓮が生育していたが、昭和１６年には６４３ヘクタールが干拓され水田や畑地になった。その水田や水路から、蓮が生育を始めた。昭和４２年頃からこれらの蓮を収集し、育てたのが内田又夫氏である。
現在は５０余りの品種が収集され、交配も行なわれ巨椋池の蓮品種とされている。